

によほうじもくぞうこんごうりきしりゅうぞう

如法寺木造金剛力士立像の町指定文化財への指定について

1. 名称及び員数 如法寺木造金剛力士立像 2 軀
2. 種 別 重要文化財(彫刻)
3. 所 在 地 西会津町野沢字如法寺乙3533番地
4. 所 有 者 金剛山如法寺
5. 製 作 年 代 南北朝時代
6. 作 者 不明
7. 法 量 像高 阿形像:273.2cm 吽形像:269.4cm

8. 金剛力士像とは

金剛力士は仁王ともいい、口を開けているのが阿形^{あぎょう}、閉じているのを吽形^{うんぎょう}と称し、寺門に配置され外敵を打ち払うといわれている。如法寺の場合、仁王門正面向かって右側に阿形像、左側に吽形像を配している。

9. 形 状

(1)阿形像

左手は肘を曲げて後方に振り上げ、掌を内にむけ五指を曲げて金剛杵^{こんごうしよ}をとる。右手は下げて外方に張り、掌を内に捻り、五指を開いて下に向ける。顔を右方に向け、腰を左に捻り裾^{くん}(僧侶が身に付けるスカートのような衣装)裾を右方になびかせ、右脚を大きく踏み出している。

(2)吽形像

左手は下げ外方に張り、掌を下に向け拳を握る。右手は肘を曲げ外方に張り、掌を左前方に向け五指を広げる。顔を左方に向け、腰を右に捻り、左脚を大きく踏み出している。

10. 構 造

阿形像・吽形像とも寄木造^{よせぎづくり}、玉眼嵌入^{ぎよくがんかんにゅう}、全身に赤の彩色を施す。

11. 保 存 状 態

後補部は台座(阿形・吽形)、元結紐の欠落(吽形)、天衣の脱落(吽形)、彩色の一部剥落(阿形・吽形)が見られるが、大きな損傷もなく、彩色もすべて当初のものかどうかは断定できないもののよく残っており、造立当初の良好な姿を伝えている。南北朝時代を代表する金剛力士像の優品といえる。

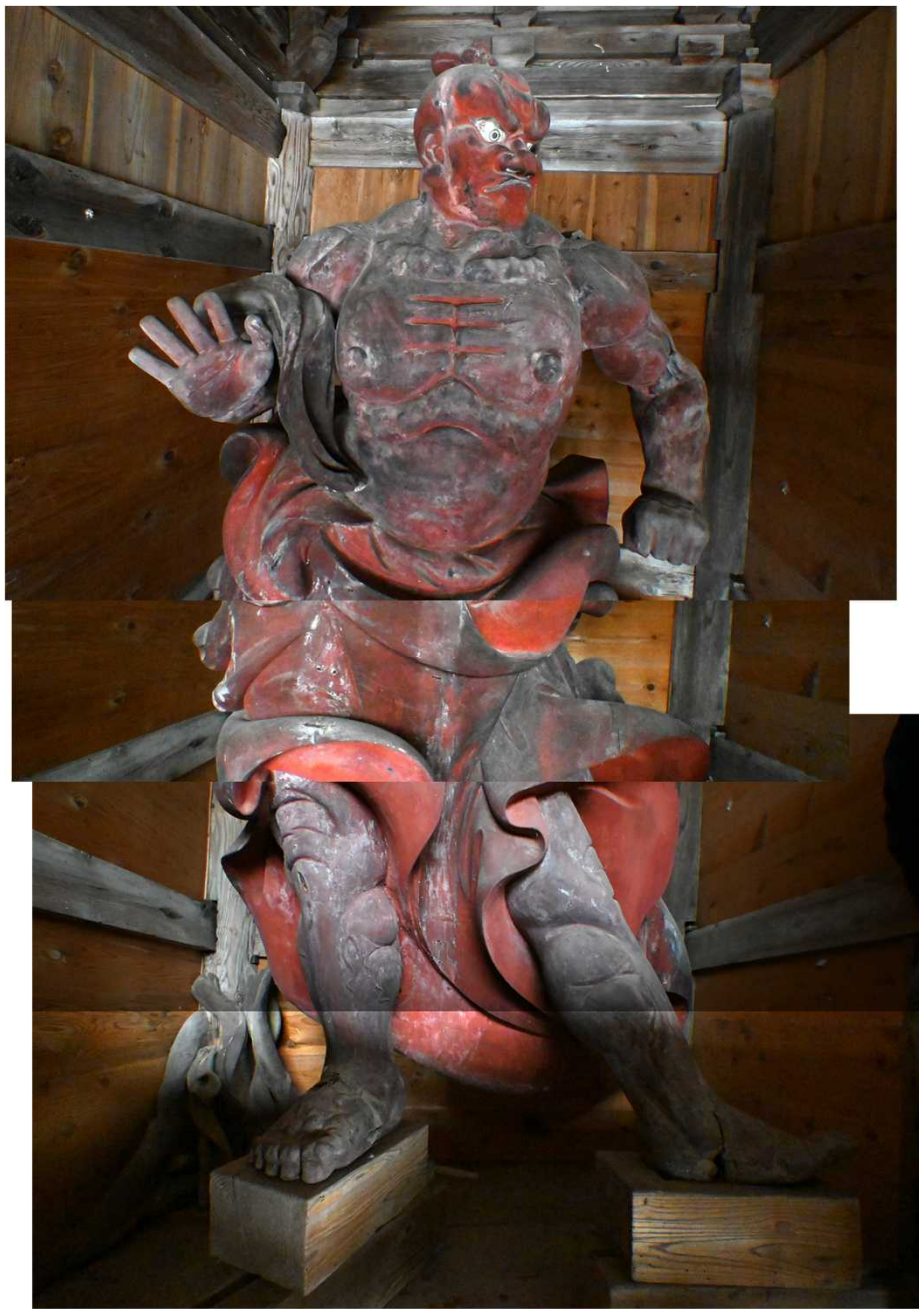
12. 文献上の記録

『新編会津風土記』卷之九十四

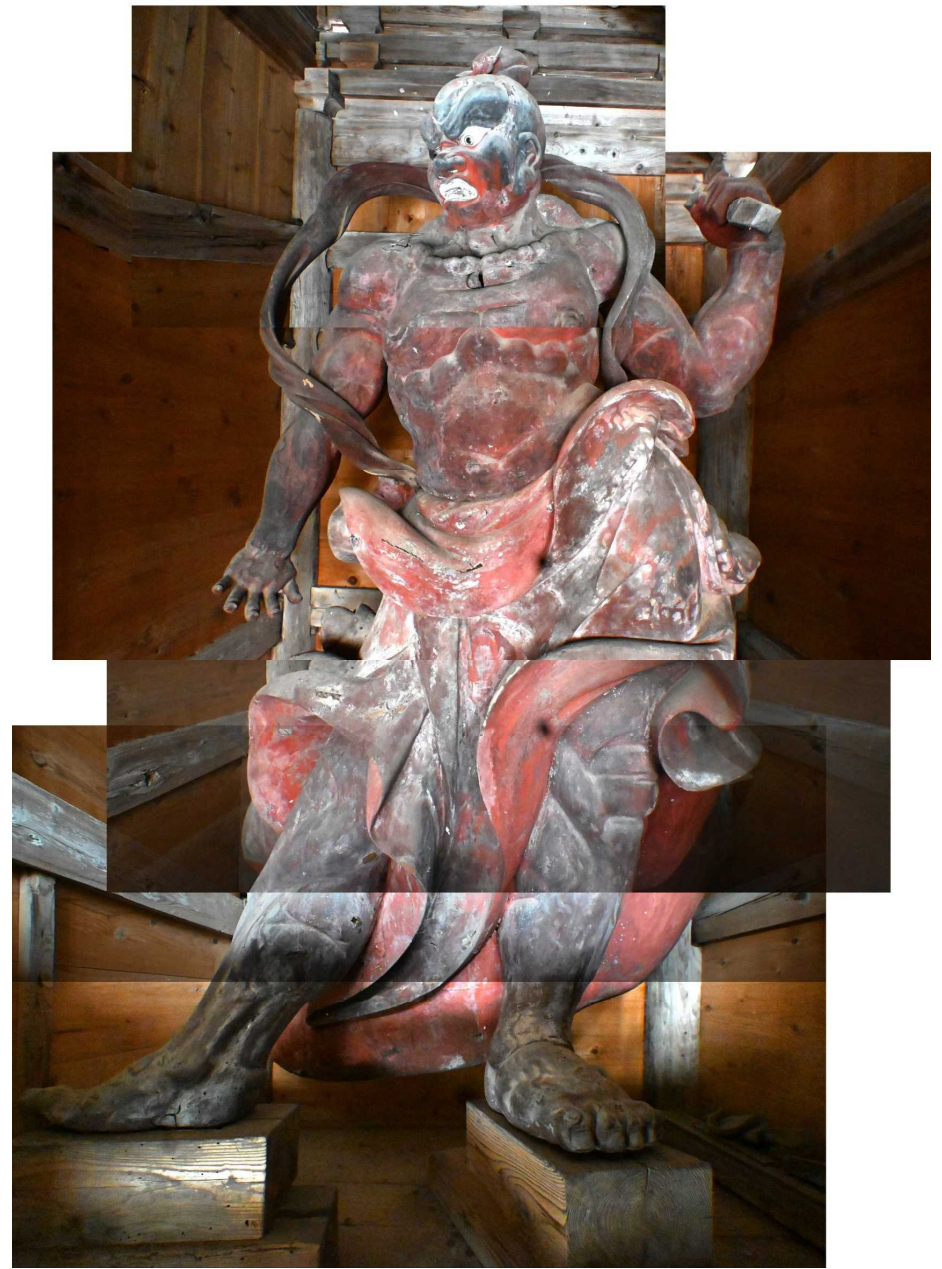
野澤原町

寺院 観音堂

二王門 本堂の東にあり、三間半に二間二尺、東向左右に力士の像を安ず、長さ一丈、運慶作と云



吽形像



阿形像

※この2つの全体像は複数の画像を合成しているため、ズレ・ゆがみ・色調の違いなどが生じています

阿 形 像



吽 形 像

